

医学部医学科ディプロマ・ポリシーに基づくアウトカム到達レベル（令和6年度以降入学者用）

		第2学年（4月）	第3学年（4月）	第4学年（4月）	第4学年（12月）	第6学年（4月）
DP・アウトカム		Level 1 (第1学年修了時点想定)	Level 2 (第2学年修了時点想定)	Level 3 (第3学年修了時点想定)	Level 4 (OSCE修了時点想定)	Level 5 (臨床実習II修了時点想定)
D P 1	プロフェッショナリズム	<ul style="list-style-type: none"> ■幅広い教養を身に付け、多様な考え方を尊重できる。 ■医学・医療に関する倫理・哲学を理解し、医師の職業について考えることができる。 ■自身と異なる価値観があることを理解し、自らの考えや行動を振り返ることができる。 ■他者に対して深い敬意と思いやりを持って接することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■幅広い教養を身に付け、社会や医療に関することについて、多面的に思考できる。 ■生と死に関わる倫理的問題について理解している。 ■医学・医療に関する法と規律を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の基本的権利と自己決定権の意義について、臨床に則して理解している。 ■患者の価値観を尊重することの重要性について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の基本的権利と自己決定権の意義について、臨床に則して説明できる。 ■患者の価値観を尊重することの重要性について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医師の職責を自覚し、チーム医療の一員として適切な態度で患者と接することができる。 ■患者の意思決定の支援のために、深い敬意と思いやりを持って接することができる。 ■臨床の場において生じる倫理的問題について、事例や規範に基づく分析のうえで、適切な行動や態度をとることができる。
	1.豊かな教養と確固たる倫理観を身に付け、利他的かつ公正な態度で行動できる。					
	2.医師の職責を十分に自覚し、社会に対する責任を遂行できる。					
	3.自分自身の在りようを振り返り、自らの行為を客観的に捉えることができる。					
D P 2	専門的な医学知識に基づく問題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> ■医学の基礎となる科学の知識を修得している。 ■人体の構造と機能の関連を、生物学・化学・物理学の観点から科学的に捉えることができる。 ■統計学の理解に必須となる数学の知識（微分積分・線形代数）を身に付けている。 ■人間の行動について社会科学（文化人類学や社会学）の視点から考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■解剖学・生化学・生理学を通じ、人体の正常な構造と機能を説明できる。 ■医学統計・疫学の基礎となる統計学やデータサイエンス・AIの知識を身に付けている。 ■人間の行動について行動科学の視点から考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■病理学・微生物学・薬理学を通じ、発病機構や病態について説明できる。 ■診断の基本的な概念及び各臓器別の疾患に関する病態・検査・治療法について説明できる。 ■健康・疾患について、生物学的な視点に加えて心理・社会的視点からも捉えることができる。 ■医学知識を基礎医学研究に活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■主要な症候について臨床推論ができる。 ■医療安全や感染対策の重要性について説明できる。 ■社会保障の枠組みを理解し、公衆衛生の重要性について説明できる。 ■医学統計・疫学に関する基本的な考え方と意義を説明できる。 ■死の定義と判定方法を理解し、関係する書類を正しく作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■診療の場において生じる多様な課題に対して、基礎医学、臨床医学、行動科学、社会学の知識を活用できる。 ■医療安全の観点から、医療現場において報告・連絡・相談を実践できる。 ■医療現場において医療関連感染症の防止対策を実践できる。
	1.遺伝、発生					
	2.正常構造、機能、代謝					
	3.心理、行動					
	4.成長・発達、加齢、死					
	5.発病機構、病態					
	6.診断、治療					
	7.医学統計・疫学					
	8.地域医療・保健・福祉					
	9.医療安全・感染対策					
D P 3	基本的診療技能に基づく全人的医療	<ul style="list-style-type: none"> ■医療・福祉施設の患者・利用者に対して、心理・社会的背景を踏まえた視点を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療・福祉施設の患者・利用者心理や行動を行動科学等の知見をもとに捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■基本的な医療面接・身体診察に関する技術について説明できる。 ■診療録の記載法等について説明できる。 ■臨床の場において、どのようにして診療が行われているのか、EBMの概念を踏まえて説明できる。 ■心理社会的背景や発達段階に応じた視点をもって患者へアプローチすることの重要性を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■模擬患者に対して心理・社会的側面に十分に配慮して医療面接を行うことができる。 ■模擬患者に対して医療面接を行い、模擬患者やシミュレータに対して身体診察を適切に実施できる。 ■シミュレータに対して基本的臨床手技や救急処置を適切かつ安全に実施できる。 ■EBMに基づき、診断計画や治療計画を適切に提案できる。 ■自らが担当する患者について指導医にプレゼンテーションできる。 ■必要に応じて医療文書を作成できる。 ■診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者に対して心理・社会的側面に十分に配慮して医療面接を行うことができる。 ■患者に対して医療面接を行い、診断仮説に基づいた身体診察を適切に実施できる。 ■患者に対して基本的臨床手技や救急処置を適切かつ安全に実施できる。 ■EBMに基づき、診断計画や治療計画を適切に提案できる。 ■自らが担当する患者について指導医にプレゼンテーションできる。 ■診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。
	1.患者の病歴聴取を正確に実施できる。					
	2.患者の身体診察を適切に実施できる。					
	3.基本的臨床手技や救急処置を適切かつ安全に実施できる。					
	4.診断計画を立案し実施できる。					
	5.適切な治療計画を立案し、治療に参加できる。					
	6.自らが担当する患者についてプレゼンテーションできる。					
	7.自らが担当する患者の医療文書や診療録を作成できる。					
	8.関連情報を分析し、EBMを実践できる。					
	9.医療安全や感染対策を理解し実践できる。					
	10.患者の抱える問題を機器横断的に捉え診療できる。					
	11.患者背景に配慮し診療できる。					
D P 4	コミュニケーションと多職種連携	<ul style="list-style-type: none"> ■人との関わり方に関する基本事項について理解している。 ■言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションに関する基本的な技法を理解している。 ■他者の話を傾聴する態度を身に付けている。 ■多職種の協働のもとに医療が提供されていることを理解している。 ■医師に必要なリーダーシップを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■円滑なコミュニケーションスキルを用いることができる。 ■対人関係に関わる心理的要因を理解している。 ■チーム医療の意義を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■円滑なコミュニケーションスキルを用いて、良好な人間関係を構築できる。 ■対人関係に関わる心理的要因を意識したコミュニケーション方略を考慮することができる。 ■他者の話を傾聴し、その感情を理解・共感する態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■適切なコミュニケーションスキルを医師-患者関係において応用する方法を理解している。 ■患者・家族の立場に立ち、理解しやすい言葉を用いて医療面接に臨むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■適切な態度・言葉遣い・身だしなみを意識して患者・家族に接することができる。 ■患者が必要とする情報を把握し、わかりやすく伝えることができる。 ■チーム医療における医師の役割と他職種の役割を説明できる。 ■医療現場において他職種と良好な関係を築くことができる。
	1.患者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。					
	2.患者・家族に対して、適切な言葉遣いでわかりやすく説明できる。					
	3.医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。					
	4.リーダーシップを理解し、多職種間連携に参加できる。					
D P 5	地域医療への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■哲学や社会科学の観点から、社会における医療の役割について考えることができる。 ■地域医療構想の考え方を理解し、地域における様々な医療実践について説明できる。 ■大学病院における地域医療連携体制について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■日本の医療体制を法制度の側面から説明できる。 ■地域における医療・福祉の仕組みや意義を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■経済の変動をはじめとする様々な社会構造の変化が医療に与える影響について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■我が国における社会保障、医療保険制度、地域医療連携体制について説明できる。 ■救急医療について説明できる。 ■災害医療について理解している。 ■在宅医療について理解している。 ■地域職能における健康増進、疾病予防、安全確保のための活動の重要性を理解し、それらに参加する手法を身に付けている。 ■国際社会における保健医療と公衆衛生について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■病診連携・病病連携など地域医療連携体制の現状について説明できる。 ■地域医療に積極的に参加できる。 ■災害医療について説明できる。
	1.社会保障・医療保険制度・地域医療連携体制（救急・災害医療や在宅医療を含む）について説明できる。					
	2.地域医療に積極的に参加できる。					
	3.地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。					
	4.災害医療に積極的に参加できる。					
5.国際社会における保健医療と公衆衛生について説明できる。						
D P 6	科学的探究心と国際的視野	<ul style="list-style-type: none"> ■基礎医学研究の主要な領域を把握している。 ■文献検索や適切な引用方法を身に付けている。 ■研究倫理の基礎を理解している。 ■基礎科学系の実習を通じ、基本的な実験手技と結果の考察方法を身に付けている。 ■英語による日常会話能力に加え、医学・医療に関する基本的な英語の語彙を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■基礎医学系の実習を通じ、結果を論理的に考察できる。 ■研究倫理の意義を説明できる。 ■医学・医療に関する専門用語を用いて、英語で話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■研究計画を立案し、適切に遂行するための手法を理解している。 ■自身の行った研究内容を論文の形式でまとめることができる。 ■基礎研究は医学・医療の発展のために行われることを理解している。 ■医学・医療に関する英文文を読んで概要を理解できる。 ■医学・医療に関する英文文作においてテクニカルライティングを活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自身の行った研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできる。 ■臨床研究が医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われることを理解している。 ■医学研究に関する内容を英語によりプレゼンテーションできる。 ■人を対象とした研究、動物・遺伝子組換え実験に関するルールや、研究活動に関する利益相反について説明できる。 ■臨床の場において、英語による基本的なコミュニケーションが取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■研究が医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われていることを説明できる。 ■医学情報を必要に応じて英語によっても得ることにより、臨床上の問題解決を図ることができる。 ■人を対象とした研究、動物・遺伝子組換え実験に関するルールや、研究活動に関する利益相反について説明できる。 ■臨床の場において、英語による基本的なコミュニケーションが取れる。
	1.医学・医療での未解決の課題を発見し、解決方法を考案できる。					
	2.医学研究で用いられる基本的研究手技を実施できる。					
	3.必要な医学・医療情報を英語により得ることができる。					
	4.実習・実験結果について論理的に考察し、プレゼンテーションできる。					
	5.科学的思考に基づいた批判・討論ができる。					
	6.医学・医療の発展のために、得られた研究成果を世界に発信できる。					
	7.国際的視野に立ち、医学・医療に関する課題について考察できる。					
	8.医療活動を通じた国際協力を貢献できる。					
9.研究倫理を理解したうえで研究を実施できる。						
D P 7	情報・科学技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■一般的な個人情報保護の意義や情報セキュリティの重要性を理解している。 ■情報機器の扱いに加えて、表計算ソフトやプログラミング言語を用いたデータの分析と可視化の基本的な手法を身に付けている。 ■データサイエンス・AIの理解に必須となる数学の知識（微分積分・線形代数）を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■様々なデータのクレンジング・分析・可視化に係る基本的な手法を身に付けている。 ■AIの歴史や活用に関する倫理を説明できる。 ■AIの原理を理解し、機械学習や深層学習の基本的な手法を身に付けている。 ■データサイエンス・AIの理解に必須となる数学の知識（確率・統計）を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■個人情報保護や情報セキュリティに関する重要性を説明でき、研究の場で活用できる。 ■様々なデータのクレンジング・分析・可視化に係る基本的な手法を研究の場で活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療現場における個人情報保護や病院情報セキュリティについて十分に理解している。 ■医療情報システムの歴史の変遷と課題、電子カルテを含む病院情報システムの特性を理解している。 ■データサイエンスやAIが医療分野でどのように応用されているかについて説明できる。 ■医学・医療の課題解決における生体工学アプローチを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療現場において個人情報保護や病院情報セキュリティを認識して行動できる。 ■医学・医療分野へのデータサイエンスやAIの知識を活用した課題解決の可能性を考慮することができる。 ■電子カルテの特性を踏まえて適切に活用できる。
	1.個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。					
	2.コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。					
	3.電子カルテの特性を踏まえて適切に活用できる。					
4.医療AI（人工知能）の現状と課題を理解し、臨床や研究の場で活用できる。						
D P 8	生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ■生涯にわたって学び続けるためのアカデミックスキルを身に付けている。 ■医師としての多様なキャリアを把握している。 ■将来の目標設定をすることの重要性を理解している。 ■自らの心身を大切にできる。 ■実習科目を通じて、他者と協働して学ぶ姿勢を身に付けている。 ■他者と互いにフィードバックしあう能力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■修得したアカデミックスキルを用いて自律的に学習を進めることができる。 ■解剖実習等を通じて、互いに協働しつつチームで学びあう態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■医学・医療が常に進歩していることを認識している。 ■研究活動を通じて、医学系研究者としてのキャリアを認識している。 ■医学英語を生産学習スキルの一つとして捉え、積極的に活用していく姿勢を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■見習型臨床実習や社会学系実習等を通じて自身のキャリアを主体的に構築していく姿勢を身に付けている。 ■これまでの学修・経験を省察し、自己の課題を明確にした状態で臨床実習に臨むことができる。 ■診療参加型臨床実習を通じて、臨床医としての多様なキャリアを認識し、自身のキャリアについて主体的に考えることができる。 ■臨床の場において、他の学生と互いにフィードバックしあうことでより良い学びを得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■診療参加型臨床実習を通じて、医学知識が常に変わりゆくことを認識し、生涯学習の意義を認識している。 ■診療参加型臨床実習を通じて、臨床医としての多様なキャリアを認識し、自身のキャリアについて主体的に考えることができる。 ■臨床の場において、他の学生と互いにフィードバックしあうことでより良い学びを得ることができる。
	1.医学・医療の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。					
2.他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。						

医学部医学科ディプロマ・ポリシーに基づくアウトカム到達レベル（令和6年度以降入学者用）

第6学年（1月）		
DP・アウトカム	Level 6 (卒業時の能力≒DPを想定)	Level 7 (臨床実習の到達目標(厚生労働省)) ※DP7は除く
DP1 プロフェッショナリズム 1.豊かな教養と確固たる倫理観を身に付け、利他的かつ公正な態度で行動できる。 2.医師の職責を十分に自覚し、社会に対する責任を遂行できる。 3.自分自身の在りようを振り返り、自らの行為を客観的に捉えることができる。 4.患者に対して深い敬意と思いやりを持って接することができる。	Level.1-5の内容を達成したうえで、 ■豊かな教養と確固たる倫理観を身に付け、利他的かつ公正な態度で行動できる。 ■医師の職責を十分に自覚し、社会に対する責任を遂行できる。 ■自分自身の在りようを振り返り、自らの行為を客観的に捉えることができる。 ■患者に対して深い敬意と思いやりを持って接することができる。 (アウトカムA)	ディプロマ・ポリシーを達成したうえで、 ■医師としての基本的価値観（社会的使命と公衆衛生への寄与、利他的な態度、人間の尊重、自らを高める姿勢）を常に意識して行動できる。 ■人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。 ■患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。 ■倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。 ■利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。 ■診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。
DP2 専門的な医学知識に基づく問題対応能力 1.遺伝、発生 2.正常構造、機能、代謝 3.心理、行動 4.成長・発達、加齢、死 5.発病機構、病態 6.診断、治療 7.医学統計・疫学 8.地域医療・保健・福祉 9.医療安全・感染対策	Level.1-5の内容を達成したうえで、 ■発展し続ける基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学に関する以下の領域の知識を有し、それらを根拠に基づいて診療や研究に活用できる。 1.遺伝、発生 2.正常構造、機能、代謝 3.心理、行動 4.成長・発達、加齢、死 5.発病機構、病態 6.診断、治療 7.医学統計・疫学 8.地域医療・保健・福祉 9.医療安全・感染対策 (アウトカムB)	ディプロマ・ポリシーを達成したうえで、 ■頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。 ■患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。 ■保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。 ■日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
DP3 基本的診療技能に基づく全人的医療 1.患者の病歴聴取を正確に実施できる。 2.患者の身体診察を適切に実施できる。 3.基本的臨床手技や救急処置を適切かつ安全に実施できる。 4.診断計画を立案し実施できる。 5.適切な治療計画を立案し、治療に参加できる。 6.自らが担当する患者についてプレゼンテーションできる。 7.自らが担当する患者の医療文書や診療録を作成できる。 8.関連情報を分析し、EBMを実践できる。 9.医療安全や感染対策を理解し実践できる。 10.患者の抱える問題を機器横断的に捉え診療できる。 11.患者背景に配慮し診療できる。	Level.1-5の内容を達成したうえで、 ■患者の病歴聴取を正確に実施できる。 ■患者の身体診察を適切に実施できる。 ■基本的臨床手技や救急処置を適切かつ安全に実施できる。 ■診断計画を立案し実施できる。 ■適切な治療計画を立案し、治療に参加できる。 ■自らが担当する患者についてプレゼンテーションできる。 ■自らが担当する患者の医療文書や診療録を作成できる。 ■関連情報を分析し、EBMを実践できる。 ■医療安全や感染対策を理解し実践できる。 ■患者の抱える問題を機器横断的に捉え診療できる。 ■患者背景に配慮し診療できる。 (アウトカムC)	ディプロマ・ポリシーを達成したうえで、 ■患者の健康状態に関する情報、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。 ■患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。 ■診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。 ■医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。 ■医療事故等の予防と事後の対応を行う。 ■医療従事者の健康管理（予防接種や計刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。
DP4 コミュニケーションと多職種連携 1.患者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。 2.患者・家族に対して、適切な言葉遣いでわかりやすく説明できる。 3.医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。 4.リーダーシップを理解し、多職種連携に参加できる。	Level.1-5の内容を達成したうえで、 ■患者・家族の言葉を傾聴し、共感することにより、良好な関係を築くことができる。 ■患者・家族に対して、適切な言葉遣いでわかりやすく説明できる。 ■医療チームのスタッフを尊重することにより、良好な関係を築くことができる。 ■リーダーシップを理解し、多職種連携に参加できる。 (アウトカムD)	ディプロマ・ポリシーを達成したうえで、 ■適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。 ■患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。 ■患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。 ■医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。 ■チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。
DP5 地域医療への貢献 1.社会保障・医療保険制度・地域医療連携体制（救急・災害医療や在宅医療を含む）について説明できる。 2.地域医療に積極的に参加できる。 3.地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。 4.災害医療に積極的に参加できる。 5.国際社会における保健医療と公衆衛生について説明できる。	Level.1-5の内容を達成したうえで、 ■社会保障・医療保険制度・地域医療連携体制（救急・災害医療や在宅医療を含む）について説明できる。 ■地域医療に積極的に参加できる。 ■地域住民に対する健康増進、疾病予防、安全確保のための活動に積極的に参加できる。 ■災害医療に積極的に参加できる。 ■国際社会における保健医療と公衆衛生について説明できる。 (アウトカムE)	ディプロマ・ポリシーを達成したうえで、 ■保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。 ■医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。 ■地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。 ■予防医療・保健・健康増進に努める。 ■地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。 ■災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える
DP6 科学的探究心と国際的視野 1.医学・医療での未解決の課題を発見し、解決方法を考案できる。 2.医学研究で用いられる基本的研究手技を実施できる。 3.必要な医学・医療情報を英語により得ることができる。 4.実習・実験結果について論理的に考察し、プレゼンテーションできる。 5.科学的思考に基づいた批判・討論ができる。 6.医学・医療の発展のために、得られた研究成果を世界に発信できる。 7.国際的視野に立ち、医学・医療に関する課題について考察できる。 8.医療活動を通じた国際協力を貢献できる。 9.研究倫理を理解したうえで研究を実施できる。	Level.1-5の内容を達成したうえで、 ■医学・医療での未解決の課題を発見し、解決方法を考案できる。 ■医学研究で用いられる基本的研究手技を実施できる。 ■必要な医学・医療情報を英語により得ることができる。 ■実習・実験結果について論理的に考察し、プレゼンテーションできる。 ■科学的思考に基づいた批判・討論ができる。 ■医学・医療の発展のために、得られた研究成果を世界に発信できる。 ■国際的視野に立ち、医学・医療に関する課題について考察できる。 ■医療活動を通じた国際協力を貢献できる。 ■研究倫理を理解したうえで研究を実施できる。 (アウトカムF)	ディプロマ・ポリシーを達成したうえで、 ■医療上の疑問点を研究課題に変換する。 ■科学的研究方法を理解し、活用する。 ■臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。
DP7 情報・科学技術の活用 1.個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。 2.コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。 3.電子カルテの特性を踏まえて適切に活用できる。 4.医療AI（人工知能）の現状と課題を理解し、臨床や研究の場で活用できる。	Level.1-5の内容を達成したうえで、 ■個人情報や情報セキュリティに関する法令を遵守し、臨床や研究の場で活用できる。 ■コンピュータを用いてデータを分析し、問題の解決に役立てることができる。 ■電子カルテの特性を踏まえて適切に活用できる。 ■医療AI（人工知能）の現状と課題を理解し、臨床や研究の場で活用できる。 (アウトカムG)	ディプロマ・ポリシーを達成したうえで、 ■医療現場において患者個人情報保護や病院情報セキュリティを意識して実践することができる。 ■電子カルテを含む病院情報システムを用いて、診療情報を適切に扱い、管理することができる。 ■医学・医療の課題解決に向けてデータサイエンス・AI及び生体医工学アプローチを必要に応じて実践することができる。
DP8 生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢 1.医学・医療の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。 2.他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。	Level.1-5の内容を達成したうえで、 ■医学・医療の進歩に関心を持ち、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。 ■他の医療者と互いに教え、学びあうことができる。 (アウトカムH)	ディプロマ・ポリシーを達成したうえで、 ■急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。 ■同僚、先輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。 ■国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。